

# 平成 28 年度 教育・研修委員会活動報告

2016 年度下半期（2016 年 10 月～2017 年 5 月）活動報告

委員長 大植孝治 副委員長 大賀正一

委員 康 勝好、小林良二、笹原洋二、嶋田 明、末延聡一、高橋義行、藤 浩、森 鉄也、柳澤隆昭（50 音順、敬称略）

## 1. 今年度以降 3 年間の教育セッションと、セミナーについて

- 昨年まではテーマが多すぎて学会のプログラムを圧迫していたため、学術集会時の教育セッションは 5－6 題に減らし、代わりに 6 月の社員総会時にも教育セミナーを開催して、年 2 回、計 6 回ですべてのテーマを網羅するように計画をたてる。

教育セッション 30 分 毎日 2 題ずつ 計 6 題

教育セミナー（13:00-16:00） 180 分：30 分×5 題

- 過去 3 年のテーマを踏襲した形で、次ページのような教育プログラムの原案を作成。
- 1 年間で 11 コマあるので、委員 11 人で各 1 コマずつ担当する。各委員は、1 年間を通じて 1 コマを担当し、演者と座長の決定、内諾の取り付けを行う。
- 脳腫瘍および、倫理に関しては、毎年入れ方が良い、という意見があったので、毎年 1 コマずつプログラムに入れる。

### 来年以降の教育研修 3 年計画（案）

		固形腫瘍関連	血液腫瘍・血液疾患	総論・その他
1 年目 (H29)	教育セッション (学術集会時)	神経芽腫 脳腫瘍 1	ALL NDS/AA	倫理・利益相反 QOL・長期フォロー
	教育セミナー (社員総会時)	腎腫瘍 骨腫瘍	血小板系疾患 移植療法	感染対策・免疫
2 年目 (H30)	教育セッション (学術集会時)	肝腫瘍 脳腫瘍 2	組織球症 凝固異常・輸血	倫理・利益相反 放射線治療
	教育セミナー (社員総会時)	胚細胞腫瘍（除 CNS） 眼腫瘍	リンパ腫 化学療法	病理診断
3 年目 (H31)	教育セッション (学術集会時)	軟部腫瘍 脳腫瘍 3	AML 免疫不全症	倫理・利益相反 統計・疫学
	教育セミナー (社員総会時)	その他の腫瘍 外科治療	赤血球疾患・造血 腫瘍生物学	緩和・社会支援

## 2. 今年度の教育セミナーと、社員総会時のセミナー

### ① 学術集会時の教育セッション 2017年11月9-11日、愛媛県民文化会館（松山）

	担当	講師	所属	座長
神経芽腫	高橋	家原知子	京都府立医大	高橋義行
脳腫瘍	柳澤	藤村純也 鈴木智成	順天堂大学 埼玉医科大学	柳澤隆昭
ALL	康	岡本康裕	鹿児島大学	康 勝好
MDS/AA	大賀	長谷川大輔	聖路加国際病院	嶋田 明
倫理・利益相反	大植	入江源太 齋藤了太	倫理委員会委員（弁 護士・税理士）	天野功二
QOL・長期フォロー	末延	尾花和子	愛育病院	末延聡一

### ② 社員総会時のセミナー 2017年6月18日（日）13:00-16:00 聖路加国際病院

#### セッション1 座長 真鍋 淳（聖路加国際病院 小児科）

特別講演 Andrea Biondi （International BFM 会長）

テーマ：小児白血病

教育講演1 國島伸治（名古屋医療センター 分子診断研究室）

テーマ：先天性血小板異常症

教育講演2 矢部 普正（東海大学 細胞移植再生医療科）

テーマ：細胞移植療法

#### セッション2 座長 大植孝治（兵庫医科大学 小児外科）

教育講演3 田中祐吉（神奈川こども病院 病理診断科）

テーマ：小児腎腫瘍の病理

教育講演4 尾崎敏文（岡山大学 整形外科）

テーマ：小児の骨軟部腫瘍

教育講演5 今井耕輔（東京医科歯科大学 小児科）

テーマ：感染対策・免疫

## 2. 各地区のセミナーについて

厚労省の委託事業としてのセミナーは終了した（資料1：終了報告）

今年度以降もセミナーは継続する予定であるが、財源が無い場合、各地区に、安価な会場の確保や、近隣からの講師の確保など、低予算での開催を工夫していただき、各地区予算10万円以内で開催する方向で準備を進める。

地区	担当委員	開催地	日時	会場	リンク
北海道	小林	札幌	未定	未定	北海道小児がん研究会
東北	笹原	仙台	未定	未定	東北小児がん研究会
関東甲信越	康、森	未定	未定	未定	TCCSG セミナー
中部	高橋		未定	未定	中部小児がんトータルケア研究会？
関西	大植	大阪	未定	大阪大学	近畿小児血液がん研究会
中四国	嶋田	未定	未定	未定	白血病フォーラム
九州山口	大賀 未延	福岡	未定	未定	九州山口小児血液・腫瘍研究会または九州 地区小児固形悪性腫瘍研究会

### 3. 長期フォローアップ・移行期医療委員会について

- 厚生労働省の事業委託が正式に決定した  
「小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業」
- 研究会開催の準備のため、委員会を6回開催した
- 略称を、LCAS-Lifetime Care and Support for Child, Adolescent and Young Adult Cancer Survivors とした。
- 第1回研修会を、9/23.24日 キャンパスイノベーションセンターで、第2回研修会を、2/24.25日 新大阪丸ビル別館で開催することになった。
- 研修会開催に向けて、タイムテーブルの作成、スライドの作成、ホームページの開設、ロゴの作成、チラシの作成等の準備を鋭意おこなっている。
- 近々、応募を開始する予定。

### 4. 緩和ケア研修 CLIC の継続について

- 昨年度までは厚生労働省の委託事業として、本学会が主催という形で、行ってきた。緩和ケアは学会としての重要な案件であり、せっかく開始した事業を一度やめると、再開が大変であることから、今後も継続する方向で、具体的な開催案を作成することになった。
- 教育研修委員会の業務として行うこととし、CLIC 開催のためのメンバーとして多田羅竜平、永山 淳、笹月桃子、吉田沙蘭、余谷暢之の5名を教育研修委員会のメンバーに加え、「緩和ケア研修実行ワーキンググループ」を発足させた。
- 予算と参加費について
  - 1回開催の予算は、事務局経費抜きの実費で80万円程度必要。参加費は1万円とし、学会員は8千円に割引する。弁当・茶菓子代を別途2千円徴収する。
  - 40人の参加があると学会負担は40万円程度と見込まれる。

- 事務作業の委託：教育研修委員会の活動の一環として行うこととし、学会事務局にホームページ作成、参加者の受付、テキスト・チラシ印刷発送、当日の受付業務などを依頼する。
- CLIC 開催の会場と日時
  - 本年度の開催は1回とし、第一候補として9月30日～10月1日の開催を目指して会場の確保を行う。
- 緩和医療学会には共催を、小児科学会には後援をお願いすることとし、それぞれに理事長から依頼状を出す。
- 受講者確保のため、受講者の利益が得られるよう以下の対策を講じる。
  - 研修点数を増やす（現行は10点）
  - 専門医の新規申請矢更新にCLICまたは地区セミナーの受講歴を必須とする
  - 認定施設の更新にCLIC受講者の人数が必要とする。

◇ 以上の対策に関して、専門医制度委員会に審議していただくようお願いする。

## 5. 過去3年間の、小児血液・がんセミナー 開催実績報告

開催回別参加者数（平成26年度～平成28年度）

開催年度 開催ブロック	平成26年度	平成27年度	平成28年度	計
北海道	28	18	18	64
東北	21	21	22	64
関東・甲信越	54	41	65	160
中部	64	41	254	359
関西	51	27	23	101
中四国	16	41	42	99
九州・山口	46	46	43	135
計	280	235	467	982

文責：兵庫医科大学 小児外科 大植孝治